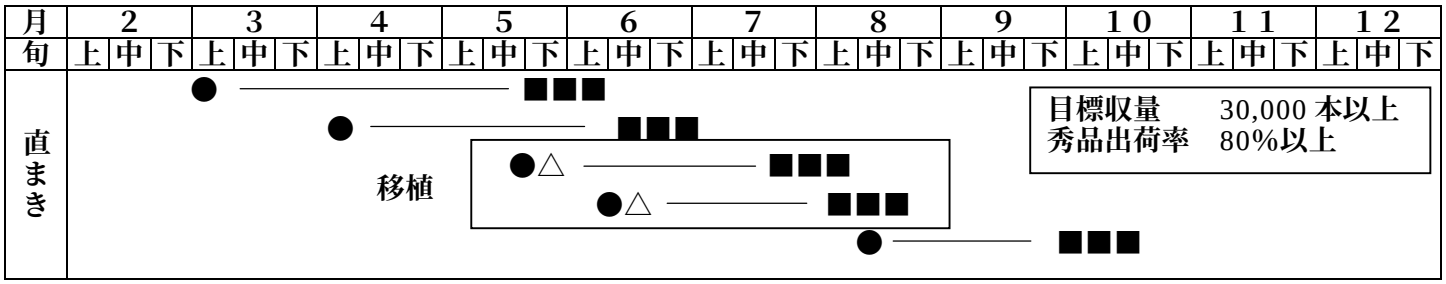
ひまわり栽培ごよみ



1）品種

【黄色～オレンジ系】

サンリッチオレンジ、レモン、ﾌﾚｯｼｭｵﾚﾝｼﾞ、ﾏﾝｺﾞｰ
いずれもＦ1 品種で、花粉がでない。は種後 55～70 日で収穫。

サンリッチパイン 45。は種後最短 45 日で収穫。

【赤～ブラウン系】

チョコフレーク、ブラッドレッド、ココア、ムーランルージュ　等

【八重咲き品種】

東北八重、レモンエクレア、モネのヒマワリ　等

2）栽培技術

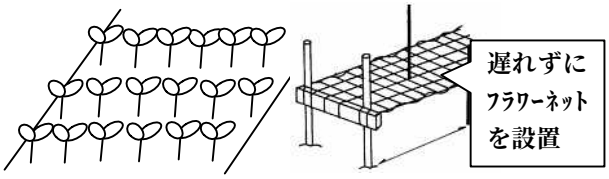
①は種

種子量　30ml／坪

栽植株数　46,000～54,000 株/10ａ

－栽植様式－
うね幅　150～180 ㎝　　株　間　10～12 ㎝
条　間　10～12 ㎝　　８～１０条植え

場所に合わせて条数は変更可。株間と条間を守る。



発芽適温：25℃（10℃以上なら約３～５日で発芽）
無理な早まきは避ける。特に直まきのときは温度（地温）に留意すること。
２月のは種は、移植栽培が無難なので、ペーパーポット等には種すれば定植が容易になる。

②ほ場準備

少肥料や節水管理が必要なので、根が伸長できないような停滞水があるほ場、粘土質が強く、土塊の粗いほ場は、暗きょや明きょによる排水対策をし、有機物（肥料分の少ない）の施用などにより土壌性を改善する。

③定植（移植栽培の場合）

本葉 1.5～２枚程度が定植適期（は種後 10 日頃）。
温度は 15℃以上あれば順調に生育する。
ハウス促成では温度管理に注意する。特に霜の降りるようなときは確実に保温が行われるようにする。

④施肥

元肥は、前作の有無、種類にもよるが、基本的には普通畑であれば無肥料でスタートし、土作り肥料のみを投入する。生育に応じて追肥で対応した方が良い。

－施肥例－１ａ（30坪）当たり
苦土石灰　8kg（ｐＨで調整。ｐＨ5.5～6.5）
ＢＭ苦土重焼燐　6kg
※ 原則的には、土作り肥料以外は投入しない。
※ 地力の低いほ場ではＮ成分0.2kg/1ａ程度（有機入り化成）。

⑤かん水

発芽揃いまでは土壌水分を保つが、その後は、生育が旺盛にならないように、徐々にかん水量を減らし、乾燥気味の管理とする。 品種別特性参照

⑥温度管理

生育適温：20～30℃
夜温は 10℃以下にならないように保温または加温、日中は 30℃以上にならないように換気する。

⑦その他

支柱、ネットの設置：２m間隔に支柱を立てる。ネットは生育にあわせて、草丈の 2/3 高さに設置する。

⑧病害虫防除

病害では斑点細菌病、べと病、さび病、うどんこ病、灰色かび病などが発生する。
いずれも高温・多湿で発生しやすいので換気を徹底し、薬剤防除と合わせた防除体系をとる。
害虫では、アブラムシ、ハダニ、アザミウマ、ヨトウムシ類が発生するので、予防と早期防除に努める。

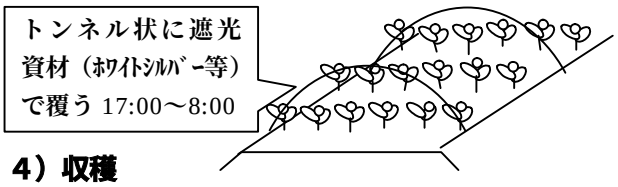
3）草丈抑制技術

・移植による草丈抑制

作付けほ場の地力が高く、直まき栽培では草丈が伸びすぎる場合や 5～6 月は種の草丈が伸びやすい作型で活用できる。
128～200 穴のセルトレイに播種し、育苗（やや老化苗になるまで）することで、花芽分化を早め、草丈を抑制する。

・短日処理による草丈抑制

短日期の方が開花が早まることを利用したもの。
本葉 1 枚展開から２～３週間 9 時間日長の短日処理（17 時～８時まで）することで１～２週間程度開花が早まり、草丈伸長も抑制することができる。



4）収穫

花びらが 90°～160°になったら出荷適期。出荷要領をに従って出荷する。